

教育とは、若者の限らない可能性を引き出す術すべ

島田市教育委員会外部評価委員と教育特別アドバイザーを兼任されている小田島さん。市内小中学校教諭の研修講師のほか「世界にはばたこう」をテーマに、児童のクラブ活動にも参加して、子どもたちの夢を広げる手助けをしています。

【好奇心を大切にする教育】

小田島さんが、先生たちのアドバイザーとして市内の小中学校を回っているとき、訪問先の校長先生に声を掛けられました。「子どもたちの限りない可能性、人との関わり的重要性、そして日本人の素晴らしさを知ってほしい。そんな思いを校長先生と共感できたので、クラブ活動への参加をお引き受けしたんですよ」と語る小田島さん。旧制中学1年のときに中国で終戦を迎え、引き揚げてきた体験や、大手企業で海外を行ったり来たりしてきた



経験を基に、子どもたちの好奇心を育てます。「英語や現地という言葉覚えることも大切ですが、ひとりの子どもが関心を持った国の事について、日本との違いなどを客観的に

材はありません。あるのは、大きな地球儀と世界地図、それに子どもたちが切り抜いてきた新聞記事だけ。「教科書を使って、基礎的な知識を教えることは大切。でも、本当

になる記事について、みんな活発な意見交換をします。「補足することもありますが、実際は私も一緒に考えたり、悩んだりです。童心に返って、楽しんでいきますよ」と笑顔が絶えません。



市教育委員会 教育特別アドバイザー
おだじま きよし
小田島 潔さん (大草)

観察する力を養うことも大切なんです」

【一緒に考えることの大切さ】
小田島さんのクラブ活動は、とてもユニークで、題材や教

に必要なことは、子どもたちが純粋な気持ちで知りたいと思つたことを、ちゃんと教えてあげることです」と語る小田島さん。クラブでは、ひとりの子が発表した世界中の気

【自信を深め、いざ世界へ】
「子どもの『知りたい学びたい』という意欲はすごいですね。こういう気持ちで得た知識は忘れないだろうし、何より自信に繋がります」と話す小田島さん。「知りたいことを知るための手助け。また、疑問に正面から向き合い、最後まで一緒に考えてあげる」というスタンス、これこそが、詰め込み式の学力社会にはない、幅広い常識を持った日本人になるポイントだと、先生たちにアドバイスするそうです。

「自分で物事を考えて判断できる大人になってほしい。そして日本人の素晴らしさを知り、将来堂々と世界を渡り歩いてくれたらうれしいです」と、目を輝かせる子どもたちに期待を寄せています。



大津小・六合小 合同のクラブ活動 (6月17日)



Shimadian File #38